

R.F.C

リスク・カウンセラー & ファイナンシャル・カウンセラー

Information & Report

2004.09.02 Vol.2004-09

子連れで再婚。子供が夫と養子縁組していないと…

義父と養子縁組をしないまま成人となった！

五十年前に 十歳の男児を連れて再婚！

自営のA氏は現在六十歳になる。実直なA氏はとても仕事熱心で不況風など知らないほど社業も着実に推移し誰が観ても順風万般だ。しかし、数年前から誰にも相談できずにつつと悩み続けていることがあるというのだ。

信州の在で一人暮らしをしてる年配の母(八十二歳)のことだと云う。A氏の実父はA氏が六歳の時に亡くなっている。やがて、一人息子を必死に育てたA氏を連れて義父と再婚した。人手の足りない田舎のことだ。朝から晩まで野良仕事。手が空けば義父の実家の作業まで手伝わなければならない。真つ暗になるまでそうして働く母の姿に少年だったA氏は母の身体を氣遣いながら自分に誓っていた。

「東京の大学に行つて良い会社に入って…きつと母を楽にしたいぞ…」

【ちよっと歳時記】

台風十六号の余波で雨の日が続く。小降りになったのを見計らって公園を散歩する。水溜まりの無数の小さな水紋を時々大きな水紋がきき消してしまふ。見上げる大きな水紋の木に溜まった水滴が、ピチャッとメガネを直撃するように落ちてきた。

花壇には赤・黄・白の白粉花が群れるように咲いている。管の長いラッパ状の花弁を萼の部分から取って水滴を吹き飛ばし、花弁の根元をそつと引つ張り管から雄しべが抜けなように伸ばす。

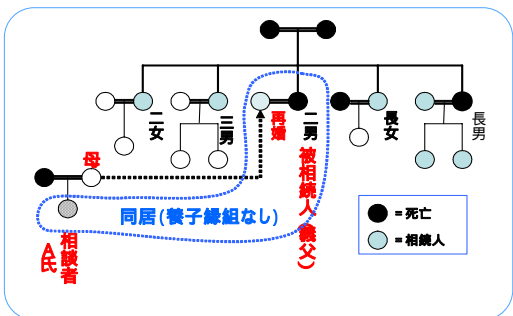
高く放るとクルクル回つて落ちた。落下傘だ。でも濡つていて重いのかすくすく落ちてしまつた。花が終わつて萎みには黒い種子の球ができていた。爪で割つてみる。中は期待通りにオシロイのように真っ白い。当たり前だが何もかも昔と同じだった。(細野)

だからといって義父との折り合いが悪かつたわけではなかった。新しい家にすつかり溶け込められたわけでもなかったが、それなりに義父も気を遣つてくれていたことはわかつた。その頃、どうい理由だったのかは分からないが、入籍した母の姓とは異なる旧姓のまま少年時代を過ごし、やがて東京の大学を卒業し社会人となった。

つまり、義父の養子として入籍していなかったのです。社会に出てからもA氏にとつて戸籍のことが大きな障害になつたような記憶はなかつたので、自分の中では、さほど大きな問題としてとらえていなかった。

それは、二義父と母の間には子供はいなかつたから(できないか? つくらなかつた?) なのかも知れない。

しかし、自分が所帯を持ち子供が成長するにつれ、頃の中に残つていた少年の頃の誓いのような声と母が義父に仕えるように働いていた姿がたびたび思い浮かぶようになり、年寄り夫婦の二人暮らしが心配で、かなり頻繁に子供を連れて実家に帰つて来た。妻も自分の両親に対して協力してくれていた。



先ごろ配偶者をガンで亡くされた六二歳の女性から相談をいただいた。ご主人の介助や経済的な心労で未だ気持ちが不安定なご様子でした。が、今回のこの経験からご自身の保険を見直しておきたいということだった。

配偶者が他界されるまでの病院費用が一ヶ月に約三十万円も掛かり、年金と預貯金の取り崩しで何とか対応してきたそうです。しかし、契約していた生命保険の医療特約では一日あたり1生

義父が亡くなって 相続問題が浮上!

八年前に突然義父が倒れた。それまでは、正月、春と秋の彼岸、お盆、そして先祖の命日…と、年に四五度の郷帰りを欠かすずしてきたが、義父が倒れてからは、毎月土日の休みに行くようにしていた。それは高速道路が整備されたので昔にもならなかつた。しかし、家族の介護もむなししく三年前に亡くなった。

納骨を済ませ、当然のことだと思つて義父名義の自宅と周辺の土地(現在・約一億五千万円)を母が相続するようにその手続きを始めた。

義父の兄弟姉妹に「遺産分割協議書」に印鑑をもらうため長男の伯父を通じてお願いしたのだが、いつまでも経つても書類が戻つてこない。伯父に聞いてみたところ「他の兄弟達が捺印することを認めないから。」

「今のままでも生活するのに何の支障もないのだから、五十年近くも夫婦として頑張ってきた母が相続することとを伯父達は認めないと云うのだ。何故だ! それでも何も言わず黙つている母が可愛そう! あれだけ苦労してきた母に對する親戚の仕打ち…報われない母…悔しい。A氏はそんな気持ちで悶々としていた数年

「医療保険」は 特約よりも主契約が良い

頼ることなく、充実した給付金等が受取できる医療保険の設計を依頼された。

◆「主契約」+「医療特約」の場合、①主契約に併せ期間が左右される(最長:八〇歳)。

②主契約の保険料で特約保険料

間をすこしていらしたようで「こうして相談することができて楽になつた…」と、ホツツとしていました。

やむなく法定相続割合で 相続登記をする

「遺産分割協議書」により母に相続することができないのであれば、母が健在である内に法定相続割合で相続登記をする方法があることをお伝えしました。(法定相続割合に関係なく相続人なら誰でもできる)

手続きは簡単だ。義父の除籍謄本をとり相続人を確認。被相続人の相続財産を市町村長にある「名寄せ帳」により確認。相続人の関係図(申請する相続人の住民票(この場合は母)を揃えます。この手続きは、申請者が相続人の内の一人であればできる手続きで、親戚の誰が反対していようが法定相続の手続きをすることが可能です。

ついでの話ですが、いつの日にか、母がなくなつた場合の相続人はA氏であり、当然母の持分の十割をA氏が相続取得することになるのです。

A氏は、母が亡くなつた後には祭司として義父と母の墓を守ることを、叔父や伯母達にしっかりと伝えると云つていましたし、「叔父や伯母達もきつと母をねぎらつてくれるでしょう。…と云つて穏やかな言葉が、私にはとても印象的でした。

が左右される。③医療特約に限度がある。

◆「総合医療保険」の場合は、①単独の医療保険契約ができる。

②総合医療保険の各種特約が付加・解約ができる。③一生生涯に亘り保険料を定額払い込み(終身型)となるので、入院治療費の負担を厚く保険で補償しようとするならば「総合医療保険」が断然有利になるのだ。

年々、新しい保険商品が出てくるので、古い契約の保険は早めに見直しておかないととんでもないことになる。(保険F.P 山中三佐夫)

債務超過になった人の一番深刻な悩みは…？

リスク・カウンセラーへの相談は多種多様です。毎日を何気なくごく普通に暮らしていた生活だったはずなのに突然訪れるトラブル。

サラリーマンの家庭に『連帯保証人のトラブル』『相続のトラブル』『不動産のトラブル』『債務超過の問題』『家族の健康問題』が出てきて家庭が一挙に暗くなる。

そして、中小企業の経営者には『取引先の倒産』『経営の危機』『取引先との契約トラブル』『従業員のトラブル』など、予期していなかった事態に、相談する相手もなく悩み抜いた挙げ句、精神的にも肉体的にもボロボロになって訪ねてくるのです。

以前にもお話ししたように、来訪者のほとんどの方から「こんなことだったら、もっと早く相談に来れば良かった…」と後悔の言葉を聞きます。

特に、債務超過になってしまった人で、ギリギリになって相談に来る傾向があるのは自宅を所有している人なのです。

「ご自宅は？」と尋ねてみて「賃貸住宅ですが…」とやや遠慮がちに応える債務者の深刻さは、実はそれほど深刻な状況ではないことが多いのです。

問題なのは、住居を自己所有する債務者の場合なのです。本当に寂しそうな最愛の人を失ったかのような声で聞いてきます。「先生、何とか自宅だけでも残せないでしょうか…」と実に深刻な表情だ。

住宅の自己所有にこだわりすぎて増やした債務。

債務超過になった経緯には様々な要因があります。

サラリーマンの債務超過の要因には、住宅ローン、サラリーローン、そして友人の連帯保証の債務などがあります。家を買いたい一心で、自分の収入を工夫して膨らませて『これで幾らまでなら借りられる』とばかりに目一杯の借入金で住宅をした人が問題の人となっています。

一方、『自分の収入だと、毎月の返済額が幾らまでなら大丈夫…』と考え、「住宅取得の第一歩は返済に無理のない小さな住宅を…」と考えて家を買った人の中には、住宅ローンの返済に行き詰まるような人はいなかった。

住宅を購入してまだ数年しか経っていないのに、リストラなどの原因でローン返済に行き詰まった時どのように対処するかが問題なのです。

やっとの思いで購入した自分名義の住宅なのだから…。なんとか手放さないでこのまま住みつづけていたい。



リスク・カウンセラー奮闘記

自分がおかれている状況を考えずに、住宅ローンの返済をなんとか維持しようと返済資金の不足分をサラリーローンから借りてしまった例も少なくない。

個人向けの『民事再生法』の適用によって救済できるケースもあるが、収入の目途が明らかでなかったり、更に大きな債務がある場合などは必ずしも再生できるものとはいえない場合がある。

債務者の多くは涙目で訴えてくるのだ。家だけは…。妻に何と言ったら…。子供達が…。両親が…。と悲痛な表情はいつ見ても辛くなる。

そんな時に、少しでも住宅所有に対するこだわりを切り替えてほしいという想いで債務者に話します。

「住宅ローンで家を買うと云うことは、借入金相当額の抵当権が設定されているので、返済しているローンが完済になるまでは、ローン会社の所有物のようなものなのです。」「最近、家族のライフスタイルや通勤先に合わせて賃貸住宅を借り換える方法だってあるですよ。」

「見切り千両！」で負債の傷を大きくしないことだ。

誰が見ても、誰が検証しても駄目だと分かっていることに対して、ダラダラと結論を先送りしている人ほど悲惨なものはないのです。

納得がいくまで本人の気持ちを聴き、想いを受け止めていくことはリスク・カウンセラーにとって一番大切なことだと心がけています。それと、そうってしまった原因は、本人が自ら言葉にしない限り絶対に追及することはしないことにしている。目の前にいるその人の、どうにもならない辛い気持ちを受け止めてあげるには大切なことだと考えている。話が数時間に及ぶことはしばしばのことだ。時には延べ時間で20時間を超える場合もある。

「この問題を有利に解決するにはそんなに時間がないのに…」と思う場合があっても焦らない。リスク・カウンセラーから話すことは『貴方は辛さから解放される』『貴方のこれからの人生は明るい楽しい』と云う内容の話を少しずつしています。そうしているうちにハッとするほど債務者の目の輝きが変わる時があります。『眼の鱗が取れる』という瞬間なのでしょう。稲妻が走った！…と表見した方もありました。

そうなると話が早い。物事を進める優先順位がきびきびと判断できるようになるのです。

「何であんな事にこだわっていたのか…」とも言います。「先生！こんな時は『見切り千両』ですね…」だって…。この一言を聞いた時、「この人は救われる！」と確信できるのです。その後は、ドッと快い疲労感が来る瞬間でもある。

引越しの話

先日、松本引越センターの幹部の方とお話しをする機会があった。引越荷物を大切に取扱うことは当然のことだが、お客様のプライバシーに関する守秘義務は更に大切なことだと考えているとの事。顧客の事情は知る由もないが、訊あつての引越の場合で、引越し先を知られたいくないような時は相談すれば適切に対処してもらえらるようだ。尾行が心配なら、荷物を一旦倉庫に収容し、数日後に引越し先に届けることもしているそうだ。また、女性の引越に朗報なのは、部屋に荷物運び込む前に、部屋の中に「盗聴器」が仕掛けられていないかを探知機を使って調査してくれるオプション・サービスもあるとのこと。引越が個人情報管理にこんなにも配慮されていることを改めて知った。

第8号のリスク・カウンセラー奮闘記はの誤りでした。お詫びして訂正させて頂きます。

【ホロニック】

(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を発揮する一方でそうした個が調和して全体を構成する (小学館「カタカナ語の事典」より)

R.F.C Information & Report

第009号 2004.09.02 Vol.2004-09

発行者 株式会社ホロニクス総研
責任者 細野孟士 DZC05310@nifty.com

http://homepagel.nifty.com/holonics
〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12 かねだビル7階
Phone (03)5684-0021 Fax. (03)5684-0031